

疫学研究・臨床研究に関する情報の公開について

研究課題名

虚血性心疾患および心不全患者における患者転帰を規定する因子の検討

研究計画

(1) 背景・意義

心臓リハビリテーションにおいて運動療法は栄養指導や生活指導と共に重要な役割を果たしている。心血管疾患患者における運動療法は運動耐容能、自律神経および炎症反応の是正などの効果が期待され、さらに、生命予後の改善、入院率の減少をもたらすことが明らかとなっている。1. しかしながら、先行研究によれば、年齢、性別や合併症の有無により、運動療法による運動耐容能改善効果に差があることが報告されている。2. そのため、リハビリテーション介入時に各患者の臨床的背景因子および身体機能を把握し、介入に役立てることは重要であるが、いまだ不明な点が多いのが現状である。患者転帰に影響を及ぼす臨床的背景因子または身体機能を明らかにすることができれば、介入方法を検討する一助となり、患者の身体機能向上、さらには生命予後改善にも寄与する可能性がある。

(2) 目的

入院時の臨床的背景因子や身体機能とリハビリテーションの介入効果の関連およびそれらの因子が患者の転帰または予後に及ぼす影響を明らかにすること。

(3) 方法

1. 対象者

虚血性心疾患または心不全を有しており、入院時にリハビリテーションが施行されたすべての患者。

2. 研究デザイン

本研究は前向きコホート研究。入院時、リハビリ開始時および退院時調査を行い、その後、一定期間もうけた後に、心血管イベントの有無、再入院および生命予後を調査する。予定調査期間は3年とする。

3. 調査項目

臨床的背景因子、身体活動量、身体機能、日常生活活動、Quality of life、認知機能、調査期間中のイベント

4. 解析方法

入院および初回リハビリ時、心リハエントリー時および退院時調査にて得られたデータ間の関連、調査項目および退院後のイベント発生の関連について検討する。

本研究では通常診療で得られた臨床データを使用するため、すべてのデータは診療録から採取する。

個人情報の取り扱い

本研究の目的を達成するために必要な範囲を超えて診療録からの個人情報を取り扱いません。また、得られた情報は個人が特定されないように匿名化した上で、細心の注意を払い安全に管理します。なお、本研究により得られる研究結果は個人が特定されることはない形でまとめます。

連絡先

リハビリテーション科 理学療法士 水越 大輔:内線 3409